ひろしまの土地改良

水土里ネット

早春

2018年 第252号

第16回ひろしまの農村フォトコンテスト　最優秀賞
「太陽の恵み」　平本　元（撮影場所：安芸太田町）

就任ごあいさつ

水土里ネットひろしま
（広島県土地改良事業団体連合会）
会　長　木山　耕三

この度、広島県土地改良事業団体連合会会長を拝命いたしました、木山でございます。

会員並びに関係者の皆様には、日頃より農業・農村整備事業の円滑な推進並びに本会の運営につきまして、格別なご理解とご支援ご協力を賜り、心より厚くお礼申し上げます。

本会は、農業・農村が有している資源や多面的機能が適切に発揮されるよう、農業生産基盤の整備と併せ、農村の生活環境向上の一助となる農業・農村整備事業を積極的に推進して参ります。

昨年５月には改正土地改良法が施行され、農地の基盤整備事業への優遇措置が図られることとなり、農村整備事業の更なる推進に向け、積極的に取り組む所存です。本会が果たすべき使命・役割を果たすためにも、長年培ってきた技術と経験を最大限に活かし、役職員一丸となって農業の持続的発展と農村の振興に取り組んでまいります。

今後も、一層のご支援とご協力を賜りますよう、お願い申し上げまして、会長就任のごあいさつとさせて頂きます。

広島県土地改良事業団体連合会第60回通常総会並びに第57回土地改良功労者表彰式開催

平成30年１月30日（火）13時30分から広島ガーデンパレスにおいて、坂井中国四国農政局長、上仲広島県農林水産局長をはじめとする方々を迎え、広島県土地改良事業団体連合会第60回通常総会並びに第57回土地改良功労者表彰式が開催されました。

木山会長挨拶

総会風景

坂井農政局長 来賓挨拶

はじめに、第57回土地改良功労者表彰式が行われ、広島県知事表彰１名、広島県土地改良事業団体連合会長表彰17名の方々に、表彰状並びに感謝状が贈られました（受賞者名簿別掲）。

続いて第60回通常総会が開催され、開会にあたり木山会長が「農地や農業用施設、生活環境施設が将来に亘り、安定的に機能を維持発揮し、農業生産基盤や農村の環境基盤を着実に整備することが必要。昨年５月には土地改良法が改正され、事業実施手続きの簡素化や、農地中間管理機構が借り受けた農地の基盤整備への優遇制度などが創設され、本会においても長年培ってきた技術と経験を活かして、役割を全うしたい。」と述べられました。

山県郡大朝土地改良区野村理事長が議長に選任されて議事に入り、全ての議案が原案通り可決されました。

第１号議案　平成28度事業報告書・収支決算書及び財産目録について
第２号議案　平成29年度収入支出予算の補正について
第３号議案　平成30年度事業計画及び収入支出予算について
第４号議案　平成30年度賦課金の賦課及び徴収方法について
第５号議案　平成30年度余裕金の預入先の指定について
第６号議案　平成30年度役員報酬について

最後に、農業農村整備事業の推進について決議し、閉会しました。

●農林水産功労者（農業部門）表彰（広島県知事表彰）

小池　智慧登　様（東広島市土地改良区　理事長）

県営経営体育成基盤整備事業西田口地区の事業推進に当たり、希少種（淡水藻類）の保護、環境保全等を含め多くの問題解決に向け積極的かつ誠実に取り組み、事業の円滑な推進と工事の早期完了に寄与されています。農業振興においては「農事組合法人ファーム西田口」の設立に寄与し農地集団化への取組、農作業の効率化とコスト削減を図り、地域農業の振興に大きく貢献され、ハウス栽培と露地栽培の組み合わせによるアスパラガスの長期間収獲により、高収益な農業経営の実現に尽力されています。

農林水産功労者（農業部門）表彰　小池氏（左）

●土地改良事業功労者表彰（広島県土地改良事業団体連合会長表彰）

◆個　人

植竹　正彦 様（広島市祇園町外二ケ町土地改良区　理事）
下津江　博 様（吉田町土地改良区　理事長）
和田　利城 様（福山市土地改良区　理事）
神原　征夫 様（深安郡神辺町土地改良区　副理事長）
松浦　静夫 様（三原市大和町大草土地改良区　理事長）
南波　慎吾 様（東広島市豊栄町乃美土地改良区　理事）

個人表彰　松浦氏（左）

◆感謝状

赤間　章 様　　味村　憲治 様　　大亀　泰護 様
（故）久留島末広 様　　佐伯　良 様　　瀬野　政明 様
高繁　進 様　　森光　俊樹 様　　山根　裕治 様

感謝状表彰　赤間氏（左）

◆25年永年勤続

佐藤　京子 様

受賞者のみなさん

上段左より　佐伯氏、赤間氏、大亀氏、山根氏、味村氏、佐藤氏、
手前左より　植竹氏、神原氏、松浦氏、木山会長、小池氏、下津江氏、和田氏、南波氏

広島県農業農村整備事業推進協議会第70回通常総会開催

平成30年１月30日（火）15時10分から広島ガーデンパレスにおいて、広島県農業農村整備事業推進協議会第70回通常総会が開催されました。

はじめに浜田会長が、「昨年５月に農地中間管理機構と連携した、農業者からの費用負担を求めないほ場整備事業や、ため池等の耐震化を敏速に進める事業の創設、事業実施手続きの簡素化を盛り込んだ、改正土地改良法が成立し施行され、事業に対する期待が高まっている。農業農村整備の更なる推進に向け、一丸となって取り組んでいきたい。」と挨拶され、来賓の広島県農林水産局上田基盤整備部長から祝辞をいただいた後、議事に入り、いずれも原案通り可決されました。

第１号議案　平成28年度事業報告及び収入支出決算並びに財産目録について

第２号議案　平成30年度事業計画及び収入支出予算について

最後に農業農村整備事業の推進に向けた決議案が可決され、閉会しました。

上田基盤整備部長（左）
浜田会長（右）

（株）福田農場は、平成19年７月に特定農業法人として設立し、自社生産した米で、餅や味噌の加工･販売を手がけるほか、平成24年には６次産業推進地域支援事業の認定を受け、米粉ハウス「米豊霧（まいほうむ）」を立ち上げ米粉パンやクッキーなどの製造販売に取り組まれています。株式会社として発足し、10年が経過した今､「地域と共に」を経営モットーに歩んで来られた（株）福田農場　取締役 福田ちず子さんと米粉ハウス「米豊霧（まいほうむ）」を運営されている店長　福田千加子さんにお話を伺いました。

～これまでも　これからも「地域とともに」～

（株）福田農場

概　要	（株）福田農場
設　立	平成19年７月
構成員	３名
従業員	15名（パート、季節雇用等含む）
所在地	三次市和知町
面　積	水稲52.6ha 飼料作物、大豆等13.4ha
品　目	水稲、大豆、もち、味噌、米粉パン

――法人化へのきっかけについて

法人化する以前から農地集積を進め、集落内からは「この先農業が出来なくなれば、福田に預けたい。」という話を聞いていましたが､「法人化」という意識はありませんでした。このような状況の中、広島県が主催する勉強会に参加する過程で、法人立ち上げに必要な土台作りの資金が、集落や農場などに活用できるほか、現在営農されている農家への支援や、将来的に営農が難しくなった場合など、福田が農地を集積していけば、法人化が可能との話に、メリットもあり、将来的に地域農業を維持できると、法人化を決意しました。また、息子夫婦（福田一之さん、千加子さん）が就農を決めてくれたこともあり、広島市内から地元に戻るタイミングとも重なったことが決意の後押しにもなっています。

――生産計画や経営面について

平成19年７月に、県内で100番目の特定農業法人となり10年が経ち、利用権設定の更新時期にきています。関係戸数が100戸以上、ほ場の枚数だけでも400枚以上あり、集積を進める上で、ほ場整備事業の実施により水利や農道などの利便が向上したことが、何より助かっています。

生産計画などは自社専用のＰＣソフトを使い、苗づくりや作付計画、作付けの品種を米の必要量に応じて面積を決めるなど、情報を書き出し内部で共有しています。

（株）福田農場
福田ちず子 取締役

水稲の９割を精米直販に取り組み、作付面積も広範囲になることから、気がかりなのは水管理です。各地域による営農時期の微妙な違いを考慮しながら、地域のみなさんと同じ時期に作業を行うなど、各々の状況にあわせながら、効率的な作業を工夫しています。農業者間の対人関係や、繋がりを円滑に保ちつつ営農を進めていくことが、農地の拡大にも繋がっていくのではないかと思います。

経営面については、農繁期は季節雇用をしていましたが、手が回らないこともあり、法人化して３年経った頃から社員を毎年１人ずつ採用し、現在は家族３人と３名の社員で経営しています。社員がコンスタントに１年を通して働けるように、大豆などの作付を行い、みその仕込みやモチの加工販売に向け、加工場の申請・登録を取得し体制を整えています。加工みそは毎月200kg程度の売れ行きを見込んで仕込み、学校給食に使われたり、観光名所や道の駅、また自社の米粉ハウス「米豊霧（まいほうむ）」でも販売しています。

野菜など少量のものも含め、加工には自社生産物を使うこだわりを持ちながら、売り上げを伸ばしていきたいと考えています。

――お米のおいしさをパンでPR　米粉ハウス「米豊霧（まいほうむ）」

米粉ハウス「米豊霧」
福田千加子 店長

株式会社設立後帰農したことで、「改めてお米のおいしさを周りの方に知ってもらい、食べてもらえたら。」との思いから、米粉パンの取り組みを決意し、平成24年に６次産業事業化計画の認定を受けました。認定を受けたものの当初は、米粉パンを作るにもレシピがなく、パンに適した粉にもめぐり合えず試行錯誤を続けるなか、誘われて参加した米粉プロジェクトの勉強会で、米粉パンの講師との出会いが転機になりました。「自家製の米粉でパンを作りたい。」という構想をお話ししたところ、商品開発から店内のレイアウト、商品のパッケージデザインなど１つずつアドバイスをいただき、経営のノウハウについて初歩の初歩から学ぶかたわら、販売施設、トイレ、排水設備などを進めていきました。

米粉ハウス「米豊霧」店内で作業中

自社栽培のあきろまん80％を使用した米粉に、20％のグルテンを加えた米粉パンは常時40種類を焼き上げ、米粉パン独特の食感や、クッキーの軽い口当たりには、つい手を伸ばしたくなると好評です。米粉パンの評判は、県内外を問わず広がりを見せ、遠方から買い求めに来られる方等、子どもから高齢者まで幅広く喜んでいただけるのが励みになっています。商品がパターン化しないよう、年２回のペースで進めている商品開発にもお客さんとの会話が活かされ、今後も訪問販売で多くの方と接し、生の声を聞きたいと意欲的です。

整備されたトイレ

――地域への感謝をこめた収獲祭

毎年11月に、福田農場で作る農産物を買ってくださる方やお世話になっている方に少しでも感謝の気持ちを伝えたいと、昼食会を兼ねスタッフ70名で用意する、餅つきや芋ほりなど農業体験を楽しんでもらっています。19回目となった今年は、子どもたちを含め約180名の方が参加しました。参加者のなかには年に１度の収穫祭での再会を心待ちにしている人や、新しく増えた家族を紹介してくれる人、また思わぬところで繋がっていた縁に驚くことも多く、「続ける」ことや「人との縁」に意義を感じています。収獲祭を通して福田農場がみなさんの集いの場になってくれたらと思います。

――インタビューを終えて

地域の人たちとの交流の積み重ねを大切に農業経営されてきた福田ちず子さんの、地域に根を張る活動に力強さを感じ、収獲祭の継続は、地域農業の求心力になっていると思いました。農業を手伝う傍ら、自分のやりたいことに目覚めた福田千加子さん。今では「もっと店舗を作ってほしい」と要望されるまでになり、協力してくださった方々やお客さんとの関わりを丁寧に築かれていることが伝わりました。

ご多忙にも拘わらず、真摯にご対応いただきありがとうございました。今後益々のご活躍を楽しみにしております。

〈平成30年度農林水産予算概算決定〉

農業水利施設の老朽化にきめ細かく対応できる「農業水路等長寿命化・防災減災事業」が新たに創設されます

1　目的

農業の持続的な発展を後押しするため、農業生産活動の基盤となる農業水利施設の機能の安定的な発揮に必要な機動的かつ効率的な長寿命化対策及び防災減災対策を、早期に効果が発現する地区を対象にきめ細かく推進するとともに、効果を最大限に発揮するための取組を支援します。

2　特徴

- 受益者数２者以上で実施できます。
- 受益面積の要件がありません。

よって、地域のニーズにきめ細やかな対応が可能です。

3　事業メニュー　※ソフト単独での実施はできません。

［ソフト］施設の機能診断・機能保全計画の策定
施設の耐震調査・ハザードマップ作成　など

［ハード］農業水利施設（水路・頭首工等）の補修や更新
水管理の労力軽減のためのパイプライン化
安全確保のための転落防止柵の整備　など

4　主な要件

⑴長寿命化・防災減災整備計画を策定していること
⑵原則として国営事業と一体となる農業水利施設又は過去に国庫補助事業によって造成された農業水利施設等であること
⑶総事業費が200万円以上であること
⑷受益者数が２者以上であること
⑸ハード対策は事業期間が３年以内、ソフト対策は事業期間１年以内であること

5　事業主体　県・市町・土地改良区等

6　費用負担割合　※下記は一例でメニュー等により異なります。
国50％（中山間地55％）　県15％

【お問合せ先】
広島県 農林水産局 農業基盤課 農道整備G
☎ 082-513-3650

こちら21 創造運動事務局

～梅林小学校４年生が八木用水探検～

（水土里ネット祇園町外二ケ町　高橋ふみよ）

平成29年11月16日（金）広島市立梅林小学校４年生106名が、八木用水路沿いに除塵機までの間を約１時間半かけて歩きながら水路の役割について学びました。田んぼの取水口や堰板を挟んでいた跡など、普段気付かずに通り過ぎる箇所などをピックアップし昔の農作業風景などを交えながらクラスごとに説明したり、特にオーバーフローした水が流れ込むグレーチングのある管理道などに、とても興味を示してくれました。

除塵機の見学

実験により「秘密」の説明

除塵機では、農政局の協力のもとサイフォンの仕組みや、動力を使わず反対側の土手に水が流れる「秘密」を実験形式で説明し、実際に除塵機を動かしゴミを取る様子を目の当たりにすると、子どもたちからは「ワァーッ！」と歓声が上がりました。今回は八木用水探検前に、４年生担任の先生方と八木用水について、学習状況やどのようなことが知りたいかなど、事前打ち合わせを行うなかで多くの意見を出していただき、有意義な時間が持てた事も大きな収獲となりました。これからも、子どもたちが興味を持って学べる方法を模索しながら地域学習の一端を担っていきたいと思います。

～八木用水クリーン作戦～

八木用水を一斉清掃する「八木用水クリーン作戦」を平成29年11月12日（日）に実施し、今回で10年目を迎えました。安佐南区公衆衛生推進協議会の各地区の会長さんの協力のもと、自治体や近隣の各企業、また西原から八木に亘る地域住民の方や、東原中学校の生徒達他、幅広いボランティア総勢320名の参加をいただき清掃にあたりました。全体で燃えるゴミ1,050キロ、資源ごみ100キロ、不燃ごみ20キロを回収し、年に１度の一斉清掃ならではの効果を上げました。毎年参加してくださる地域、各企業の方々に多大な感謝を申し上げます。

「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展 2017

「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展2017に全国各地から8,069点の作品が寄せられ、入賞25点、入選204点、地域団体賞43点が決定しました。広島県からは、入賞１点、入選13点、地域団体賞３点が選ばれました。

文部科学大臣賞

「壬生の花田植」
桝本　陸斗（広島市立五日市東小学校）

入　選

「水の中」
田村　玲苺那（学校法人三光学園千鶴幼稚園）

「たうえおおきくなあれ」
ムネファディリカルイル（学校法人杉原学園松永幼稚園）

「ばらをみたよ」
小野　鳳泉（学校法人三光学園千鶴幼稚園）

「たうえをしたよ」
山口　大輔（学校法人杉原学園松永幼稚園）

「たうえをしたよ」
延岡　蒼波（学校法人杉原学園松永幼稚園）

「大山寺たいまつ行列祭」
池口　宗太朗（福山市立新涯小学校）

「年長ぞう組共同作品」
共作〔50名〕（福山市立多治米保育所）

「水々しいトマトを作るおじいちゃん」
保村　天音（東広島市立吉川小学校）

「たいへんな草かり」
内藤　梨音（東広島市立吉川小学校）

「おじいちゃんとおじいちゃんの大切な畑」
岡崎　有真（福山市立川口小学校）

「ふるさとの緑」
桒原　琉七（福山市立駅家西小学校）

「初めて見たよ！くわいの植え付け」
松尾　実果（福山市立川口小学校）

「くわいの田んぼ」
高橋　光輝（福山市立川口小学校）

地域団体賞

水土里ネット祇園　八木用水賞

「おじいさんの田んぼみち」
玖村　太誠（広島市立梅林小学校）

水土里ネット福山　くわい大賞

「新涯のくわい」
福田　心優希（福山市立新涯小学校）

水土里ネット福山　優秀賞

「カエルを見つけたよ」
徳永　凌久（福山市立新涯小学校）

第16回 ひろしまの農村フォトコンテスト

※最優秀賞は表紙に掲載

優秀賞

「瀬戸内海の恵み」 大島 寛

「水路遊び」 谷川 絵里

第16回ひろしまの農村フォトコンテストの審査会が11月10日（金）に開かれ、応募総数292点から厳選なる審査により入賞３作品、審査委員特別賞３作品が選出されました。また、広報委員会特別賞15作品を選出し、水土里の光景に心浮き立つ気持ちとなりました。

審査委員特別賞

「僕らの大収穫」
さくらっ子共同保育園

「懐かしき光景」 秋月 静枝

「田んぼのサファイア大作戦」森原 泰子

広報委員会特別賞

「幕開け」 源田 和彦

「熱演」 和泉 鉄美

「カープ絵」 西村 義雄

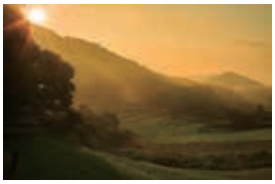
「田植の頃」 木田 敏忠

「おいしそ～」 升田 勇樹

「秋色」 妙田 俊二

「里の夕暮れ」 石崎 純一

「防蛾灯」 竹本 教子



「農村の朝」 大森 富美男

「小さな後継者たち」 中村 信之

「影長し」 岩城 育子

「ジャガ植え」 別祖 一義

「田園の交響曲」 藤原 敏明

「どっちがイケメン？」
上田　弘子

「初めての田んぼ」
河村 篤司

※入賞作品は、HPに掲載しています。
http://www.hdn.or.jp/

季刊 ひろしまの土地改良　第 252 号

平成30年２月15日
編集：ひろしま農業農村整備広報委員会
発行：広島県土地改良事業団体連合会
印刷：佐々木印刷株式会社

〒730-0017　広島市中区鉄砲町4-1 広島県土地改良会館
◆TEL（082）502-7470　◆FAX（082）502-7480　◆http://www.hdn.or.jp

住みやすく豊かな村づくり
水土里（みどり）ネットひろしま